

## 欧州視察報告<3>

視 察 項 目	表敬訪問・意見交換
視 察 日 時	2012年7月25日（水） 午前10時00分～12時00分
視 察 先 名	ザルツブルク市議会
説 明 者	クリスティーネ・オモナ氏 （ザルツブルク市議会社会民主党幹事長）外7名
担 当	矢澤博孝 松原成文

### 【目的】

オーストリア・ザルツブルク市との友好都市提携 20 周年を記念し、川崎市議会欧州視察団がザルツブルク市議会を表敬訪問し、ザルツブルク音楽祭に出席するとともに、今後の交流に向けた意見交換を行う。また、ザルツブルク市及びザルツブルク音楽祭からは、昨年3月11日の東日本大震災で被害を受けたミューザ川崎シンフォニーホールの復興支援として、ザルツブルク音楽祭のゲネプロの収益金から 20 万ユーロ（約 2,000 万円）の寄付があり、今回の訪問に於いてザルツブルク市及び関係者に感謝の意を申し上げることを主たる目的とした。

### 【ザルツブルク市と川崎市との交流のあゆみ】

- 1991年1月 モーツアルト 200 年の記念コンサート  
(平成3年) 於：洗足学園前田ホール  
在日オーストリア大使、ザルツブルク市長、川崎市長が招待され、両市長が芸術文化交流について会談
- 同 8月 川崎市長を団長とする川崎市代表団がザルツブルク市を訪問し、友好都市提携仮合意書に署名
- 1992年4月 ザルツブルク市代表団が来川し、洗足学園前田ホールに於  
(平成4年) いて、友好都市提携合意書に署名

- 1996年10月 (平成8年) 前ザルツブルク市長含むザルツブルク市関係者来日。  
川崎市洗足学園、京都を訪問
- 2002年 川崎市、ザルツブルク市友好都市提携10周年記念コンサート開催  
於：洗足学園前田ホール
- 2004年7月 (平成16年) 川崎シンフォニーホール開演ベルにザルツブルク大聖堂の鐘の音を使用開始  
(ザルツブルク州議会議員がホールオープンの1年ほど前に川崎市長を表敬訪問した際に開演ベルを選定中であることを聞き、録音して送付された)
- 2004年7月 (平成16年) 東京交響楽団音楽監督ユベールスダーン氏が、ザルツブルク市から名誉市民を授与
- 2004年8月 (平成16年) 阿部市長他6名がザルツブルク市からの招聘により、音楽分野をはじめとする今後の交流等を協議のため訪問
- 2004年10月 (平成16年) モーツアルテウム管弦楽団がミューザでのコンサート開催に伴い、シャーデン市長他4名が川崎市を訪問
- 2009年4月 (平成21年) 川崎駅からミューザを繋ぐミューザデッキからモーツアルトの音楽を放送
- 2011年10月 (平成23年) ザルツブルク音楽祭及びザルツブルク市から、ミューザ川崎シンフォニーホール復興のため寄付金を受領(20万ユーロ：約2,000万円)

※今後の記念事業予定

- ・ザルツブルク市長の川崎市訪問  
(2012年10月中旬予定)
- ・周年記念音楽コンサートの実施

## 【ザルツブルク市議会訪問】

7月25日(水)、川崎市議会欧州視察団17名は、ザルツブルク市議会旧庁舎を訪問し、同市議員と意見交換を行った。

ザルツブルク市議会からの出席者は、クリスティーネ・オモナ社会民主党幹事長及びハニロー議員、ガライ議員(住宅・家庭担当)、ケンハルツ議員(高齢者外国人問題担当)、ヘルマン議員(青少年、財政担当)以上社会民主党。自由党からはゲアトラード議員(文化担当)、レノアティ議員(社会福祉担当)の2名、市民リーク党のエベレン議員(外国人問題担当)、合計8名の議員が出席した。

はじめに、クリスティーネ議員より、ザルツブルク市の組織体制について説明をいただいた。

ザルツブルク市の行政は、市長・市議会・参事・局から構成されており、市長は選挙で選ばれ、副市長2名が市長から指名される。

市の最高決定権を持つ市議会議員は40名で、5つの局の委員会に分かれる。(本市議会とほぼ同様)市議会の政党構成は、社会民主党14名、国民党11名、市民リーク党7名、自由党5名、ドリスタツェル党2名、無所属1名となっている。市の人口は14万9,385人で、2009年の選挙時の有権者数は約10万9,000人、議員の任期は5年となっている。

2012年度の市の予算は4億3,500万ユーロ(約435億円)、さらに特別予算は4,100万ユーロ(約41億円)である。

議会の構成や予算編成等については、本市との違いは余りないが、最大の違いは議員の任期が5年である点である。また、議員活動としては戸別訪問を基本として活動しており、専業で活動している議員が多い。

ザルツブルク市議会議員からの説明を伺っていると、その端々にザルツブルク市の良き文化や伝統を大切にしていると感じられた。例えば、今回、表敬訪問の会場となった旧市庁舎についても、単に建て替えをするのではなく、リノベーション修理(費用360万ユーロ)を行い、美術展の会場として利用したり、イベント等に使用されており、何百年にもわたる古い建造物を取り壊さず、現代に生かしたまちの振興を図るとと

もにザルツブルク市の特色を生かした様々な魅力を発信していることには、学ぶものが多く、本市における老朽化施設の今後の整備方法や工場夜景、環境への取り組みの利点を生かした新しいふるさと〈かわさき〉を進める参考となるザルツブルク市議会の日常の議会活動を知ることができた。



ザルツブルク市議会議員との意見交換

### 【質疑・応答】

Q 1 : 各議員の所属委員会は、どのように決定されるのか伺いたい。

A 1 : 選挙の結果(当落ラインは約 1,700 票) 獲得議席により配分される。

議員の任期は5年であり、通常であれば任期まで同じ局の所属となるが、欠員が生じた場合調整し補充する。

Q 2 : ザルツブルク音楽祭と市議会との係わりについて伺いたい。

A 2 : 財政局でのみ係わっている。プログラムに関しては、一切係わる立場ではない。

Q 3 : 文化担当に係わっている議員も、音楽祭（プログラム）に係わることはできないのか。

A 3 : プログラムに関しては全くない。

Q 4 : ザルツブルク音楽祭の財政経費等について伺いたい。

A 4 : 資金は、市・州・国・スポンサーによって支出される。約 8,000 万～8,100 万ユーロである。約 2 倍のお金が戻ってくる。つまり黒字である。経済効果は約 2 億ユーロである。

また、音楽だけでなく伝統文化（松明おどり）も同時期に催される。

Q 5 : ザルツブルク市の高齢化率は、どの位なのか。

A 5 : 正確な数字ではないが、人口（約 15 万人）の 3 分の 1 は 60 歳以上である。ザルツブルクには、国立音楽大学、総合大学があり約 2 万人が大学生である。

Q 6 : 義務教育について伺いたい。

A 6 : 小学校は 6 歳からで 4 年間である。その後中学校で 5 年間学び、合計は、日本と同様 9 年間である。

※ その他、ザルツブルク市議会議員から、日本の原子力発電について、ドイツの原子力政策について、中国の経済問題について、川崎市の財政・市議会構成等についての質問があり、意見交換を行った。

## 【統括】

川崎市では 2004 年に「音楽のまちづくり」がスタートした。

これを契機として、市民が愛着と誇りを持ち、市のイメージアップを図るため音楽によるまちづくり「音楽のまち・かわさき」の取り組みが始まった。

市内には、2つの音楽大学・4つの市民オーケストラ・多くの市民合唱団・企業の吹奏楽団があり、様々な活動が展開されている。このような豊かな音楽資源をバックに、音楽を通じた市民文化や芸術の創造を通じ新たな都市イメージを創り、地域の活力を復活させ、新たな産業を生み出すことを目指したのが「音楽のまち・かわさき」である。

これまでも、市民、企業、学校、行政が協働し飛躍を続けている。今では、各区の特色を生かした様々な音楽イベントやコンサートが開催されるようになり、川崎の魅力を発信している。

その核であり象徴なのが「ミューザ川崎シンフォニーホール」である。ミューザは、国内外のオーケストラが公演を行い、大変すばらしい施設であるという評価をいただいております、市民にとっても晴れの舞台となっている。

一方、ザルツブルク市では、1842年にモーツァルト音楽祭が、1856年にもモーツァルト生誕100年記念音楽祭が開催され、この流れを受けて1887年にザルツブルク音楽祭が始まった。毎年夏に行われるこの音楽祭は、モーツァルトを記念した音楽祭として世界的に知られ、世界各国から観光客が訪れ、ウィーンと並び「音楽の都」として世界的に知られるようになった。

2年後には、ミューザも10周年を迎える。歴史あるザルツブルク市に比べれば発展途上の本市ではあるが、特にこれからは、音楽イベントのコーディネーターやスタッフの養成や関連産業の振興を図り、川崎の魅力を発信していくことが求められる。

「音楽の都」ザルツブルク、「音楽のまち」かわさき、共に音楽を共通項として「住んでよかった」「住んでみたいまち」として、新たな都市を創りだしていくことの必要性を感じる視察であった。



クリスティーネ・オモナ氏（ザルツブルク市議会社会民主党幹事長）

